

船舶インシデント調査報告書

令和5年3月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|----------------------------------|--|
| インシデント種類 | 運航不能（機関故障） |
| 発生日時 | 令和4年6月5日 06時40分ごろ |
| 発生場所 | 茨城県 <small>ひたちなか</small> 常陸那珂港 常陸那珂港北防波堤灯台から真方位013° 3.5海里付近 （概位 北緯36° 26.6′ 東経140° 38.3′） |
| インシデントの概要 | プレジャーボートMiraiは、北進中、船外機が停止して運航不能となった。 |
| インシデント調査の経過 | 令和4年6月29日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済 |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 | プレジャーボート Mirai、5トン未満（長さ6.32m） 231-13635茨城、個人所有 ガソリン機関、船外機、4サイクル、出力84.60kW、回転数毎分6,000、4気筒、ボア79mm、使用燃料ガソリン、平成9年3月進水 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、一級小型 |
| 負傷者 | なし |
| 損傷 | なし |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風向 北東、風速 約1.6m/s、視界 良好 海象：うねり 波向 北東、波高 1.5～2.0m |
| インシデントの経過 | <p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人1人を乗せ、船外機を中立運転として釣りを行っていたところ、うねりが高くなってきたので、帰航することとし、反転して船首を北方に向けて回転数を増加した際、船外機に異音が発生して停止した。</p> <p>船長は、機関修理業者に電話を掛けて指示を受けながら点検したものの停止した原因が判明せず、航行不能と判断して118番通報を行い、本船は、来援した巡視艇によって茨城県<small>ひたちなか</small>市那珂湊漁港にえい航された。</p> <p>機関修理業者は、船外機を点検した結果、インジェクターのパッキンが経年劣化して気密性が低下し、同パッキン部からインジェクター内部に空気を吸い込んで燃料の噴射不良により燃焼不良が発生したことが判明した。</p> <p>船外機の燃料油は、燃料油タンクから燃料フィルタ、燃料ポンプを通過して、各シリンダのシリンダヘッドに取り付けられたインジェクターで圧縮されて、シリンダ内に噴射されるようになっていた。</p> <p>本船は、令和4年4月ごろ中古で購入されたものであり、購入後、インジェクターの点検及び整備が行われておらず、また、購入以前の</p> |

| | |
|--------------|---|
| | インジェクターの点検及び整備状況は不明であった。 |
| 分析 | <p>本船は、インジェクターの点検及び整備が行われておらず、インジェクターのパッキンが経年劣化したことに気付かずに、北進中、船外機の回転数を増加したことから、同パッキン部からインジェクター内部に空気を吸い込んで燃料の噴射不良により燃焼不良が発生し、船外機の運転ができなくなって運航不能となったものと考えられる。</p> <p>船長は、本船が令和4年4月からインジェクターの点検及び整備が行われておらず、それ以前の整備状況は不明であったことから、インジェクターに不具合が発生したことがわからなかったものと考えられる。</p> |
| 原因 | <p>本インシデントは、本船が、インジェクターの点検及び整備が行われておらず、インジェクターのパッキンが経年劣化したことに気付かずに、北進中、船外機の回転数を増加したため、同パッキン部からインジェクター内部に空気を吸い込んで燃料の噴射不良により燃焼不良が発生し、船外機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p> |
| 再発防止策 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、定期的に船外機の開放点検及び整備を実施し、インジェクターのパッキンが劣化して気密性の保持が困難になる前に交換する点検を行うこと。 |